看護師と医療関係職種への負担軽減の計画及び状況

令和元年12月7日 評価

業務内容	状況及び計画	達成状況
1 薬剤師による薬剤管理		
注射指示の患者別セット化	平日時間内の全入院患者の翌日指示のセット払い出しおよび休日時間内の入院指示のセットを行っている。	○
各部署定数注射薬日切れ管理および薬剤保冷庫の管理	全部署担当薬剤師による1回/月の鑑査実施	○
抗がん剤のミキシング	薬剤部のミキシングルームで、全抗がん剤指示のミキシング	○
CV等のミキシング	ミキシングは、抗がん剤のみである	△
手術室の麻薬管理	麻薬管理の為、毎日1時間薬剤師配置	○
入院持参薬管理	持参薬コーナーを設置し、全予約入院患者の持参薬管理書作成と、看護師の依頼による時間外入院患者の持参薬管理書作成	○
入院患者服薬指導	服薬指導依頼書によりコンプライアンスの悪い患者等の服薬指導と看護師への情報提供、入院患者への麻薬開始時	○
インスリン自己注射指導	全患者に対する医師の指示による自己注射指導	○
入院患者の内服薬管理・与薬の準備	すべて看護師が実施している	△
訪問看護指示書の必要時指示の入力	訪問看護指示書の必要時指示を入力している	○
2 リハビリ職種		
嚥下訓練	言語療法士・理学療法士による嚥下困難患者の経口摂取の支援協力	○
3 臨床検査技師		
中央採血室への検査技師増員	看護師不足のため、臨時検査技師(2名)採用による採血業務の実施	○
検体受け取り搬送	時間外救急室検体の搬送	○
検体採取	検査技師による入院患者(小児を除く)のインフルエンザ検体採取	○
採血管作成	翌日、訪問患者の採血指示の採血管作成	○
4 臨床工学技士		
ME機器中央管理	人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプ・除細動・心電図モニター・保育器・PCAポンプ・ネーザルハイフロー・低圧持続吸引器・フットポンプ・NIVマスク・体温管理装置の保守点検管理(種目拡大)	○
麻酔器管理	麻酔科医常勤医減により、看護師の行なっていた麻酔器の始業点検管理を平成24年度7月から臨床工学技士により実施	○
透析室	透析装置管理、看護師と共に透析開始の穿刺・プライミング・回収。2名から3名体制に増員	○
病棟透析	病棟透析時実施時は、24時間体制で臨床工学技士が対応する	○
心臓カテーテル介助	心臓カテーテル清潔野介助業務	○
5 管理栄養士		
	患者への食物アレルギーの聞き取り・対応	○
6 病棟クラーク		
入退院に係る事務手続き 書類や伝票の整理	病棟における業務については、病棟クラークを配置(委託)し、看護職員が本来業務に専念できる環境を整えている 看護師日課表作成(翌日分)	○
電話対応	検査・手術の呼び出しは呼び出しメモの運用方法に従い、看護師・看護助手に情報伝達する	○
患者・面会者へ対応	患者・面会者へ対応し、必要時、看護師に報告・連絡する	○
物品管理	診療材料・消耗品の請求および納品確認、整理整頓管理	○
7 病棟看護助手		
ベッドメイキング	退院後の患者の空ベッド及び離床可能な患者のベッドについては、看護補助者が行っている	○
搬送業務	ベッドサイドシグナルを活用し、看護師と共にあるいは単独で検査治療等の患者搬送を行う。 リハビリの予定患者を、予約表を確認し、リハビリテーション科へ搬送・迎えの業務。休日、注射カートの搬送。	○
器材の洗浄・管理	硬性小物等、器材の洗浄と中央材料室依頼および物品管理口	○
配膳下膳	早出・運出業務による入院患者への食事の配膳下膳を行う	○
食事介助	平成23年度より、助手業務の現状を見直し、看護師でなくても出来る業務の業務拡大のための教育を進め、看護助手の増員を行って、平成28年8月より25対1看護補助加算の取得が出来た。	○
清潔ケア	看護助手能力開発委員会活動を通して、全病棟において業務の拡大を図ることができた。看護助手が単独もしくは看護師とペアで食事介助・清潔ケア・おむつ交換などを実施している。看護助手業務範囲は、看護助手マニュアルに示している。エンゼルケア実施	
おむつ交換		
患者に使用する物品の点検	車椅子や歩行器、点滴スタンドの定期点検を実施。	○
入院時、CSセット(入院セット)準備	平成30年12月に導入したCSセットを契約された入院患者へ必要物品を準備し、表示を行っている。	○
薬剤に関する業務	看護師の指示のもと、翌日の点滴の確認、定期処方シールの貼り、届いた薬の確認・収納(土日祝日)	△
8 中央材料室看護助手		
中央材料室における一次洗浄(一括)	各部署で行っていた一次洗浄を中央材料室において一括洗浄とした(毎朝、各病棟へ物品を回収)	○
次の手術の部屋の準備	元々看護師が実施していた清掃を委譲し、手術室の回転率が向上した	○
整形外科の借用器械の確認	看護師2名で確認していたが看護師と看護助手での確認となった	○
基本器械のセット・術式毎の器械のセット化	セットに費やしていた負担軽減、セット化による業務効率の向上・物品管理の効率が向上した	○
翌日の眼科手術の外回りの準備	外回り看護師の負担軽減	○
9 メッセンジャー		
物品の搬送	日勤帯においては、書類・検体・カルテ・薬品カートの搬送はメッセンジャーが行っている。	○

業務内容	状況及び計画	達成状況
10 外来看護秘書		
診療介助(看護ケアを必要としない)	医師の指示のもとで、患者のカルテや書類管理、印刷などを行っている。	○
看護補助業務	患者・家族案内、検査予約及び次回受診などの説明を行っている。エンゼルケア 患者搬送 処置介助(子どもの固定)	○
物品管理	定数配置薬の管理、物品定数チェック、物品請求、物品補充などを行っている。	○
11 病棟看護秘書		
事務的業務	看護師・医師の指示のもとで、入・退院時の書類作成、書類の印刷などを行っている。回診車点検	○
看護補助業務	患者・家族の入院案内及び説明などを行っている。 患者搬送 転室支援(ベッド搬送、床頭台、スツール移動) ADLの自立した患者、軽介助の患者搬送 入院時オリエンテーション パス・検査説明 退院患者の対応	○
薬剤の補充・物品管理	病棟定数配置薬の管理、物品定数チェック、物品請求、物品補充などを行っている。 DC・AED・救急カート点検 ベッド配置チェック	○
DiNQL業務	DiNQL基礎データ収集を行っている。	○
体圧分散マットレスの管理	体圧分散マットレスの在庫と場所が確認でき、必要時に準備できる	○
12 透析室看護秘書		
事務的業務	看護師・医師の指示のもとで、書類の印刷などを行っている。	○
環境整備	退室患者のベッド作成・ベッド整備、環境整備などを行っている。室内の掲示物の管理を行っている。	○
診療の補助	検体の提出、透析物品の準備などを行っている。	○
物品管理	物品定数チェック、物品請求、物品補充などを行っている。	○
13 内視鏡室看護秘書		
事務的業務	看護師・医師の指示のもとで、書類の印刷、物品定数チェック、物品請求、物品補充などを行っている。	○
環境整備	処置台整備、環境整備、清掃などを行っている。	○
診療の補助	患者への書類渡しと次回外来の説明	○
洗浄・物品管理	処置で使用する機器や器具の準備、器械・器具の洗浄、洗浄後片付けなどを行っている。処置具の準備	○
14 看護部事務(保育士)		
病児保育	看護師の指示のもとで、病児の保育を行う。	○
事務的業務	看護部管理日誌出力と部署管理日誌との照合、研修関連事務、人事管理システム入力、DiNQL入力、勤務予定・実績表確認照合、物品管理など	○
ブログ管理	ブログ更新(毎週)管理	○
15 介護福祉士		
日常生活訓練介助	看護師・作業療法士・理学療法士の指導のもと、日常生活訓練介助の実施、患者・家族に指導など 病棟内リハビリテーション	○
生活援助	看護師・作業療法士・理学療法士の指導のもと、日常生活(食事介助・清潔ケア・おむつ交換)援助の実施 更衣、申し送り時Nsコール対応	○
院内デイケアにおけるアクティビティ	院内デイケアにおいて、認知症看護認定看護師の指導のもと、アクティビティを行っている	○
16 医療安全事務		
事務的業務	委員会事務、研修関連事務、死亡者リスト入力、DiNQL入力、セーフマスター統計入力、医療安全カンファレンス記録、 医療過誤ニュース作成、テープ起こし、感染対策委員会議事録作成、抗菌薬届け出の集計、研修会資料印刷、研修アンケート集計	○
物品管理	物品請求	○

事務部門・その他

妊娠・子育て中の看護職員に対する配慮(院内保育所、妊娠中の本人の申請による夜勤免除、育児短時間勤務、病児保育)各種制度の周知

看護職員配置については、7:1看護師配置数を把握し、業務負担を考え管理する

年次有給休暇の取得促進

電子カルテの導入(平成31年1月)

看護師の採用人数の増加による、職員1人当たりの業務負担軽減

休憩時間、仮眠時間の確保(確保できているか調査を実施)

夜間保育の検討(夜間保育の要望調査・夜間保育士の確保・処遇の検討)

入院案内

CSセットの案内、説明

面会時間の案内(インフルエンザ流行期における面会案内、注意事項の案内)

課題

(1)看護師の負担軽減を目的に各部署の看護秘書・看護助手増員を進め、業務拡大が進んできている。しかし、看護助手に関しては、処遇等により定着が課題である。

(2)薬剤師による服薬指導は実施されているが、その後の評価が実施されていないため、継続的な服薬管理が課題である。そのためには、薬剤師の増員と病棟常駐時間の延長が望まれる。

(3)医師・薬剤師・看護師による持参薬WGIにより、持参薬管理の手順・方法を検討し、デモ病棟2つ実施しその評価・結果により、全病棟へ移管する状況である。